

第646回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2022年9月度 ——

◇ 開催日

2022年9月12日(月)

◇ 議題

<テレビ番組>

民放連盟賞出品作品

「7月29日、ぼくは取り残された

～検証・園バス熱中症死事件～」

(放送日：5月31日(火)午前1時20分～2時15分)

◇ その他

九州朝日放送株式会社

第646回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2022年9月12日(月)午後4時00分～5時15分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社7階A会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 6名

| | |
|------|-------|
| 副委員長 | 石橋和幸 |
| 委員 | 丸石伸一 |
| 委員 | 田川真司 |
| 委員 | 上野恵梨奈 |
| 委員 | 石井靖子 |
| 委員 | 藤村まこと |

欠席委員数 2名 (レポート提出)

| | |
|-----|------|
| 委員長 | 赤木由美 |
| 委員 | 中山裕二 |

放送事業者側出席者名

| | |
|-------------------------|-------|
| 代表取締役社長 | 和氣靖 |
| 執行役員 総合編成局長 | 木附ゆかり |
| 執行役員 報道情報局長 | 柴田高宏 |
| 報道情報局 解説委員長 (プロデューサー) | 臼井賢一郎 |
| 報道情報局 報道情報センター (ディレクター) | 草道彩名 |
| 番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長 | 園田哲也 |
| 番組審議会事務局 (視聴者・広報室) | 松永俊郎 |

4. 議題

- (1) テレビ番組 民放連盟賞出品作品

「7月29日、ぼくは取り残された～検証・園バス熱中症死事件～」

放送日時：5月31日(火)午前1時20分～2時15分

- (2) 9月・10月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
(3) 7月・8月 視聴者・聴取者応答状況の報告
(4) その他

5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- 中間市で起きた保育園児の死亡事件に加え、過去2件の死亡事案における被害者家族を軸に据え、国や自治体の関係者、他の保育園経営者等に対し長期間かつ多面的な取材を行っており、視聴者に重大さと課題を訴える内容になっていた。
- 過去の事件を詳しく伝え、その度に対策が打ち出されたにもかかわらず効果が得られていない実態を示したことはとても評価できる。3つの事例の共通点と相違点がわかり、幅広い観点での対策が必要なことを浮き彫りにしていた。
- 事件を検証することによりチェック体制の甘さを取り上げる一方で、送迎が保育に当たらないことや待機児童への対応から自治体がバスを運行する事例や送迎バスの運行に危機感を持ち一人運行を行う事例など、様々な角度で取り上げている点が良かった。
- 中間市の事件や類似する事案を振り返り再発防止策を紹介し、本質は何なのかを問いかけ、国や自治体における施策の必要性を訴える構成は起承転結の形になっていて、視聴者へのメッセージを分かりやすくしていた。
- ごく少数の園児に対し複数名で対応しても置き去りが起きるということには驚きを隠せない。KBCのコメンテーターが指摘する「構造的な問題」の徹底取材に期待している。
- わが子を失ったご家族の気持ちを思うと胸が締め付けられた。番組を通じて世論を動かし、保育行政の課題に一石を投じることができればと思う。
- 送迎バスの車内に取り残された園児を察知するセンサーなどの開発も欠かせない。費用や手間もかかるが人手に頼らない安全管理体制の構築を急ぐべきだと感じた。

などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- 3つの事件と複数の課題について伝えた結果、情報量がやや多すぎるという感想を抱いた。一つひとつの課題に対する掘り下げや解説も欲しかった。
- 安全と経営のバランスや従事者の待遇、人手不足、監査体制の不備など、根底にある現場の課題をもう少し整理して伝えてもよかったのではないかな。

- 問題の解決につながるヒントや提案が乏しかった。関係者や有識者による視点での新たな対策を番組内で提案すべきだった。もっと踏み込んで問題提起して欲しかった。
- 一人で送迎する保育園の取材にかなり長い時間割かれていたが、どういう意図があったのか分かりにくかった。
- 被害者家族がどんな気持ちで取材に応じたのか、アプローチの仕方や関わり方に問題はなかったのか気になった。
- オンエアの時間が深夜1時台というのは残念だった。多くの人目に触れる時間帯に放送して欲しかった。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、担当者からは、

- 悲惨な事件が繰り返し起きてしまう背景には、単に今回の事件を起こした保育園だけに留まらない問題が潜んでいるとの仮説を立て取材を進めた。
- 取材を進める中で保育園に対する行政の管理がないに等しいという実態が見えてきた。放置されているという全体像こそが全ての事件の遠因になっていると感じた。
- 本作の制作に当たり当初は解決策を提示しようと考えていたが、現状では解決策はどこにもないことが分かった。まず根本的な問題をマスコミが取り上げないといけないと思った。
- 中間市の事件発生直後は「園長が一人で運転していたこと」が原因のように伝えられていたが、複数人の体制でも同じミスが起きることが分かった。複数で送迎をしている現場との対比を目的に、一人で送迎する保育園の事例に大きな時間を割いた。
- 一人で送迎する保育園の事例に大きな時間を割き視聴者にありのままを見せることにより、中間市の事件でも同様の事態が起きたであろうことを想像して欲しかった。
- 保育の現場では、本作で紹介した問題の他にも、なり手の不足や雇用の問題などが単純ミスの遠因として介在することが考えられる。検証しきれていない部分はこれからも仮説を立て取材を進めたい。
- 中間市の事件のご遺族には弁護士を通じて制作意図を説明して理解を得た。事件・事故の被害者遺族に対しては最大限の配慮を怠らず、再発防止にむけた内容を放送すべく悩みながら取材に当たっている。
- 本作はどれだけ問題を普遍的に考えられるかというところに重きを置いた。今回の事件を起こした保育園だけを糾弾する内容では意味がない。残念ながら静岡でも同様の事件が発生しており、これまでの知見も生かしながら今後も報道に取り組みたい。

などの説明をしました。